

**サンパウロにおける
安全の手引き
【邦人被害事例集】**

**2024年3月
在サンパウロ日本国総領事館**

目 次

1	空港利用時	1
(1)	空港	1
(2)	空港出発後	1
2	外出時～歩行中	3
(1)	強盗	3
(2)	スリ・置引き	5
(3)	ひったくり	5
3	外出時～車両利用中	7
(1)	強盗1(車両運転中・乗降中)	7
(2)	強盗2(タクシー乗車中・乗降中)	8
(3)	短時間誘拐	10
(4)	車上ねらい	11
4	ご家庭で	11
(1)	武装強盗団によるアパート強盗	11
(2)	自宅(旅行・外出中の空き巣)	12
5	ホテルで	13
(1)	強盗	13
(2)	窃盗(置引き)	13
6	その他	14
(1)	両替後の強盗	14
(2)	銀行利用時の強盗・窃盗	15
(3)	投石・パンクにより停車した車両への強盗・窃盗	16
(4)	クレジットカードの不正利用	17
(5)	レストランにおける強盗	18
(6)	企業・商業ビル等に対する強盗	18
(7)	銃器発砲の危険性がある現場への遭遇	19
(8)	電話による脅迫・詐欺	19

これまでに当総領事館にご通報いただいた被害例や当地で多発している被害例のうち、今後も注意を要する事例を挙げ、各事例ごとに防犯対策を説明しています。

1 空港利用時

(1) 空港

被害例 1	午前11時頃、グアルーリョス空港内ターミナル所在のコーヒー店において飲食していたところ、隣席の男がライターを落とし、理解できない言語で話しかけてきたことに気をとられていた際に、置いていたカバンを盗まれた。
被害例 2	午後3時15分頃、グアルーリョス空港において手配した車両の到着を待っていた際、荷物から少し離れた際に、トランクとともに置いていた手提げカバンを盗まれた。
被害例 3	午後5時20分頃、グアルーリョス空港において、スーツケースとカバンをカートに乗せ、チェックインカウンターが開くのを待っていたところ、見知らぬ男から話しかけられ気を取られた際に、カートに乗せていた現金や旅券在中のカバンを盗まれた。
被害例 4	午後9時頃、グアルーリョス空港においてチェックイン後、チェックインカウンター付近の出口から空港建物外に出たベンチに座りつつ、同僚と話をしていた。その際、カバンは足に接触するように置いていたが、同僚との会話の途中、一瞬鞆に背を向ける体勢になった際に盗まれた。
被害例 5	午後6時半頃、グアルーリョス空港内の飲食店（制限区域外）にて飲食中、足下に置いていたリュックサックが持ち去られた。同店舗の従業員によれば、隣席にいた3人組が退店時に自分たちの所持するリュックサックとともに被害者のリュックサックも合わせて持ち去ったことが目撃された。
対策	公共の場所では、見ず知らずの人物から話しかけられたりするなど、気を引かれる行為があっても、荷物に対する注意を一瞬でもそらさないよう心がける。貴重品は身体から離れた場所に置かない。

(2) 空港出発後

被害例 1	<p>午前7時頃、グアルーリョス空港から市内の自宅に向かうドゥットラ街道で交通渋滞のため停車中、二人乗りオートバイが車両側方に停車し、拳銃で窓ガラスを激しく叩きながら「腕時計をよこせ。」と脅迫され、腕時計を強奪された。身につけていたのは高級腕時計であり、犯人らは空港で被害者を物色し尾行したものと推測される。</p>
被害例 2	<p>午後7時20分頃、出張を終えグアルーリョス空港からタクシーに乗車し、自宅アパートに到着した際、玄関ゲートに入ると同時に拳銃を所持した二人組が侵入し、拳銃を突き付け制止を促した上、いきなり上腕部を殴打し、現金や衣類等の入ったカバンを奪い逃走した。</p>
被害例 3	<p>午後9時30分頃、グアルーリョス空港からタクシーに乗って帰宅途中、市内アクリマソン地区の立ち寄り先で降車し、小型キャリーケースをトランクから取り出したところ、突然、拳銃を持った男が大声を上げて近づいてきて、所持品を奪おうとした。</p>
被害例 4	<p>午前0時40分頃、国際空港からタクシーに乗って帰宅し、自宅アパート前でスーツケースを下ろし、門を入ったところで二人組の男が侵入し、被害者を羽交い締めにしてスーツケースを奪い逃走した。</p>
対策	<p>① 一般に空港利用者は旅行者や出張者が多く、高額な金品を所持している場合が多いので、強盗犯から狙われやすい。空港送迎時は、強盗犯から目をつけられないよう、一旦、空港2階の出発ラウンジ（ブラジルでの表示は1階）に上がり、（乗り換え客と思わせて）2階から出発する。</p> <p>② 市内へ向かう道路では、不審な尾行車両がないか等周囲を警戒し、万が一不審車両を確認した場合には、最寄りの警察署等に一時待避する。</p> <p>③ 空港では華美な服装を避け、装飾品特に高級腕時計等を身につけない。また、所持品ではパソコンが狙われ易いので、一見してパソコンが入っていると分かるようなカバンの使用は控える。</p> <p>④ 空港専用タクシーは、乗り場が到着ロビーであるため、空港を出発する際に強盗犯に狙われる危険性だけでなく、一目でそれと分かる塗装がなされているため、幹線道路や市内でターゲットを物色する強盗犯に目をつけられる危険性が高い。よって、あらかじめ送迎車両を手配しておき、①と同様、2階出発ラウンジからの乗車や、自宅アパート前の路上でタクシーから降りて荷物を下ろすのではなく、アパートの管理人、門番に連絡しておきタクシーにてアパート駐車場まで入ることで防犯効果が期待できる。</p>

2 外出時 ～ 歩行中

(1) 強盗

被害例1	午後2時15分頃、ジャルジン・パウリスタ地区ジョアキン・エウジェニオ・デ・リマ通りを徒歩にて通行中、背広を着た黒人とすれ違った際に「ヘロージオ（時計）」と三回ほど声を掛けられた。ライターを貸してくれと言っているものと勘違いし戸惑っている、黒人が目の前に立ち塞がって拳銃を見せつけ、再度「ヘロージオ」と、時計を要求してきた。そこでズボンのポケットから財布を取り出して現金を渡そうとしたところ、黒人がいきなり腕時計（ROLEX）を奪って逃走した。
被害例2	午後4時頃、サンパウロ市内中央市場付近を歩いていた際、突然背後から男に腕で首を絞められたため、咄嗟にカバンを抱え込んだところ、別の男から殴る蹴る等の暴行を受け、ストラップで腕に下げていたスマートフォンと抱えていたカバンを強奪された。
被害例3	午後5時頃、パライゾ地区アビリオ・ソアレス通り沿いのスーパーマーケットへ徒歩で向かっていたところ、いきなり若い男に後ろから肩を組まれ、「ジネエイロ（現金）、セルラー（携帯電話）」と声を掛けられた。男が拳銃や刃物を所持しているような仕草をしたため、財布を取り出し、在中の現金全て（400レアル強）を渡したところ、男はその場を立ち去った。
被害例4	午後9時頃、サンパウロ市パライゾ地区クリス・トロンブジェルグ通りを歩いていた際、後方からオートバイに乗車した二人組の男が現れ、携帯電話及び現金を出すよう脅された。被害者が両手を挙げると、被害者のポケットから携帯電話および財布を盗み、オートバイでブリガデイロ通り方面へ逃走した。
被害例5	午前9時頃、パライゾ地区マリア・フィゲイレド通りの自宅アパート前でタクシーから下車した直後に、武器らしき物を所持した男一人に不意にカバンを強奪された。
被害例6	午前1時30分頃、サントス市ジェネラル・フランシスコ・グリセーリオ街のバス停留所にいたところ、二人組が背後から近づき、携帯電話を差し出すよう要求した後、うち一人が発砲し、被害者は死亡、犯人は何も奪わずその場から逃走した。

被害例7	午前0時頃、パウリスタ大通りを徒歩にて帰宅途中、前方（パライゾ方向）に突然少年四人組が現れ、被害者は咄嗟に逃げようとするも直ぐに追いつかれ、後ろから羽交い締めになれ転倒した際に前歯を折る怪我を負った。少年らは、現金や携帯電話在中のカバンを奪って徒歩にて逃走した。
被害例8	午後11時30分頃、パライゾ地区において、被害者が徒歩にて通行中、デリバリーバッグを背負った二人組の賊が被害者にけん銃を突き付け、携帯電話の他、財布や腕時計を奪って逃走した。
被害例9	午後2時30分頃、セントロ地区において、二人組の賊が背後から被害者の首を絞めた上、旅券等在中のナップサックの他、ズボンポケット内から現金等在中の財布を奪い取り、手指に軽傷を負わせて逃走した。
被害例10	午前8時30分頃、セントロ地区において、複数人の賊が被害者を取り囲んだ上、顔面を複数回殴打し、財布等在中のリュックサックを奪い取り、顔面、腕等に軽傷を負わせて逃走した。その後、クレジットカードの不正利用が判明した。
対策	<ul style="list-style-type: none"> ① 路上を歩行する際は、周囲に目を配る等、警戒心を顕示する。 ② 可能な限りラフな服装を心がける。アタッシュケース等は目立ち易いことに留意する。 ③ 特にスマートフォンやノートパソコンは狙われ易く、路上でのスマートフォンの使用や、一見してパソコンが在中しているとわかるようなパソコン用の手提げカバンについては使用を控える。 ③ 高級な腕時計、装飾品についても、移動時は装着しないよう配慮する。 ④ 決して抵抗することなく、落ち着いて犯人の要求通り行動する。 ⑤ 貴重品は分散して所持する。 ⑥ 特に旅行時など、インターネットやガイドブックで観光名所と紹介されている場所も、治安が劣悪な場合があるので、訪問する場所について事前に良く情報収集を行う。

(2) スリ・置引き

被害例 1	午後0時頃、リベルダーデ地区リベルダーデ大通りを徒歩にて通行中、何者かにいきなり後ろからズボンの前ポケットに手を突っ込まれ携帯電話を奪われそうになったが、反射的にポケットを手で押さえたため、被害には至らなかった。
被害例 2	午後0時30分頃、スーツ姿でセントロ地区に位置する地下鉄サンベント駅付近を歩行中、男が人混みに紛れて背中にアイスクリームをかけ、別の男が、もう1名の邦人にポルトガル語で話しかけてきたが、犯罪手口であることに気付き、近くの飲食店に避難した為、被害には至らなかった。
被害例 3	午前1時10分頃、サンパウロ市パウリスタ大通り隣接のカフェにおいて同僚と歓談していたところ、若者の一団が近付き、ぶつかってきたため、後方を確認したところ、椅子にかけていたカバンが無くなっていた。
被害例 4	午後5時頃、地下鉄に乗車していたところ、満員の車両内（リベルダーヂ～ポルトゲーザ・チエテ間）において、気付かないうちにショルダーバッグのファスナーを開けられ、旅券と現金在中のケースを抜き取られた。
被害例 5	午前9時頃、サンパウロ市リベルダーヂ地区のファストフード店で朝食を取っていたところ、70歳代の男が前でコインを落としたため拾うのを手伝っていた間に、椅子に置いていたカバンを別の物とすり替えられた。
対策	<p>① 歩行中は常に警戒心を持ち、周囲に視線を配るなど警戒心を顕示する。</p> <p>② 人混みを歩く際には、周囲に注意を払い、貴重品を手で押さえる等の措置をとる。</p> <p>③ 外出の際は、なるべくラフな服装を心掛け、できれば複数で行動する。</p> <p>④ 現金や銀行キャッシュカードなど、貴重品はできるだけ分散して所持する。</p>

(3) ひったくり

被害例 1	午前9時頃、サンパウロ市ヴィラ・マリアナ地区道路を歩いて横断しようとしたところ、突然、背後から男1名が近づき、肩にかけていたカバンを引っ張られ、ひったくりの被害に遭遇した。その場にいた女性が驚き、叫び声をあげた為、男は目的を遂げずに逃走した。
被害例 2	午前10時20分頃、サンパウロ市営地下鉄ヴィラ・マリアナ駅において、ICカードのチャージを行うため財布から現金を取り出した際、走りながら近付いてきた少年に財布をひったくられた。

被害例 3	午前11時30分頃、サンパウロ市ベラ・ヴィスタ地区ジョアキン・エウジェニオ・デ・リマ通り上において携帯電話を使用していたところ、パウリスタ大通り側から自転車で下ってきた男に携帯電話をひったくられた。
被害例 4	午後0時30分頃、サンパウロ市セントロ地区セー広場においてスマートフォンで写真撮影をしていたところ、自転車に乗った男にスマートフォンをひったくられた。
被害例 5	午後2時30分頃、サンパウロ市立劇場前の交差点において、携帯電話で通話をしながら歩いていたところ、自転車に乗った男が近づいてきて、追い越しざまに持っていた携帯電話をひったくり、いずれかの方向に逃走した。
被害例 6	午後2時50分頃、サンパウロ市パウリスタ大通りとマリア・フィグレイロ通りの交差点付近を歩行中、自転車に乗った若者にスマートフォンをひったくられた。当時、パウリスタ大通りでは歩行者天国が実施され、自転車と歩行者のみが通行可能であった。
被害例 7	午後3時45分頃、サンパウロ市リベルダーヂ区リベルダーヂ通りの中央分離帯において、スマートフォンのアプリでタクシーの位置を確認していたところ、自転車に乗った男にスマートフォンをひったくられた。
被害例 8	午後6時頃、サンパウロ市パウリスタ大通りとブリガデイロ・ルイス・アントニオ大通りの交差点付近でタクシーを呼ぶために携帯電話を操作していたところ、自転車に乗った男に携帯電話をひったくられた。
被害例 9	午後10時30分頃、ジャルジン・パウリスタ地区を歩行中、後方から自転車に乗った少年が近づいてきたのが分かったため、カバンを押さえて警戒したところ、自転車の少年はそのまま通り過ぎたが直後に目の前でUターンし、すれ違いざまにネックレスを手にかけてひったくり、そのまま逃走した。
被害例 10	午後11時15分頃、サンパウロ市ベラ・ヴィスタ地区ブリガデイロ・ルイス・アントニオ大通りとサンカルロス・ド・ピニャウ通りの交差点において、携帯電話のアプリを使用してタクシーを待っていたところ、後方から近付いてきた自転車の二人組に携帯電話をひったくられた。
被害例 11	午後6時頃、配車サービスを利用して時速約40キロで移動中、後方からバイクで接近してきた二人組の後部座席の賊が半分ほど開いていた窓ガラスから車内に手を入れ、被害者が所持していた携帯電話をひったくり、そのまま逃走した。
対策	上記 「(1) 強盗」、「(2) スリ・置引き」の防犯対策に同じ。

3 外出時 ～ 車両利用時（自転車を含む）

(1) 強盗1（車両運転中・乗降中）

被害例1	午前6時頃、邦人2名がサンパウロ市ジャバクアラ地区所在のスポーツ施設に車両にて到着後、1名が同施設の門扉の鍵を取り出すため車両後方にまわったところ、後方から車両2台が接近、邦人の車両の進路を塞ぐように停車し、それぞれの車両から拳銃を所持した賊3人が降車した。賊1人が邦人の所持品を物色、もう1人がトランク内を物色、更にもう1人が邦人の車両に乗車した。その後、賊は降車したもう1名の邦人の所持品も奪った上で、邦人の車両を含む3台に分乗し逃走した。
被害例2	午後2時頃、サンパウロ市サント・アマロ区ピニエイロス川沿いのサイクリングコースを自転車で走行中、突如現れた三人組に自転車を止められたため財布を手渡した。その後、自転車も奪われそうになったが、その際、衣服がサドルに引っかかり抵抗した様になったため、木の棒で数回殴打され、裂傷と打撲を負った。
被害例3	午後5時頃、ジャルジン・エステル・ヨランダ地区マヌエル・アルバレス・ダ・コスタ通りに車両を駐車した際、二人組が現れ、車両から降りるよう命じた。その指示に従って降車すると、二人組はそのまま車両に乗り込んで走り去った。なお、車両は後日警察により発見され、返還された。
被害例4	午後6時30分頃、自家用車でアンシェッタ高速道路をサンパウロ中心地に向けて走行中、カーナビを操作するため、車両を側道に停車させたところ、拳銃を所持した二人組が車のフロントガラスを激しく叩き、何かを要求してきた。運転手が車両を発進させたところ、犯人らは車両側面に回り込み、助手席に乗車していた邦人の額を弾丸がかすめ軽傷を負った。
被害例5	午後8時頃、サンパウロ市のボウサス大通りとオスカル・フレイリ通りの交差点で信号待ちをしていたところ、突然現れた二人組に助手席側の窓ガラスを割られ、カーナビとしてフロントガラスに固定していた携帯電話を奪われ、この際、割れたガラスにより負傷した。
被害例6	午後8時50分頃、自家用車にて走行中、リベルダーヂ地区コンセリエイロ・フルタード通りの交差点で信号待ちをしていたところ、いきなり何者かに助手席側の窓ガラスを割られ、助手席に乗っていた邦人が膝の上に置いていたハンドバッグ（旅券、現金、カード等在中）を強取された。
被害例7	午後10時頃、サンパウロ市リベルダーヂ地区コンセリエイロ・フルタード通りとタマンダレ通りの交差点で信号待ちをしていたところ、二人組に拳銃を突き付けられ、現金等を奪われた。

対 策	<p>① 乗車中は、窓を閉め確実にドアロックをかける（窓の解放は危険度UP）。</p> <p>② 前方の信号・渋滞状況に配意し、停車が必要な場合には、できるだけ徐行距離を長くとり、少しでも停車時間を短くする。</p> <p>③ 徐行の際には周囲の状況をよく確認する。</p> <p>④ 停車する際には、車間距離を空けて停車する。</p> <p>⑤ 強盗用の財布・現金を所持したり、貴重品は分散して所持する。</p> <p>⑥ 車両運転時も腕時計や装飾品は外しておく。</p> <p>⑦ 車外から見えるところにカバン等の荷物を置かない（トランクに収納する）。</p> <p>⑧ 車両乗降時も被害に遭いやすいので、日頃から、乗車後の速やかな発進と降車時における周囲の確認を心がける。</p> <p>⑨ 窓ガラスにスモークフィルムを貼り、車内の乗車人員を識別しにくくする。</p> <p>⑩ 交差点や合流地点で、窓ガラスが割られてナビとして使用中の携帯電話が強奪される事件が発生していることから、窓ガラスに飛散防止フィルムを貼る等の対策を行う。防弾ガラスが理想的。</p> <p>⑪ カーナビの操作等でどうしても停車する必要があるときは、人気のある明るい場所を選ぶ。</p>
--------	--

(2) 強盗2 (タクシー乗車中・乗降中)

被害 例 1	<p>午後7時頃、タクシーに乗車中、ブリガデイロ・ファリア・リマ大通りで交通渋滞のため停車したところ、オートバイ4台がタクシーを取り囲むように停車し、全員が拳銃を車中に向け、鞆を手渡すよう脅迫した。要求通りにしなければ拳銃を発砲されるものと思い、カバンを手渡すと、犯人らはそのまま渋滞中の車を縫うようにして逃走した。</p>
被害 例 2	<p>午後7時頃、コンゴニャス空港を出発したタクシーに乗車中、サンパウロ市ジャルジン・パウリスタ地区ブリガデイロ・ルイス・アントニオ大通り上において渋滞のため停車した際、男に拳銃を突き付けられ、現金や腕時計等を奪われた。</p>
被害 例 3	<p>午後8時頃、サンパウロ市ベラ・ヴィスタ地区ジョアキン・エウジェニオ・デ・リマ通り上においてタクシーを降車しようとした際、徒歩にて突如現れた男が拳銃で後部ドア叩いて威嚇したため、運転手がドアロックを解除したところ、拳銃を所持した男が車内に半身を入れて時計と財布を要求したため、財布から現金を取り出して男に手渡した。</p>

被害例4	午後8時20分頃、パライゾ地区のレストランで食事後、付近の停留所にタクシーがないことから、しばらくの間、レストラン前付近でタクシーを探した。その後、同所を通過したタクシーを停車させることができた為、トランク内に旅行カバンを積み込み、乗車しようとしたところ、オートバイに乗った男二人組が近づき、カバンをひったくった。更に、バイクの後部に乗車していた男が降車し、タクシーの運転手に拳銃を突き付け、トランク内から旅行カバンを強取し、オートバイで逃走した。
被害例5	午後8時40分頃、パライゾ地区において、タクシーに乗車して移動中、交差点で信号待ちの際、開放状態であった運転席窓から拳銃を所持した男が身体をねじ込み、後部座席の被害者に銃口を向けながら、被害者が所持していたスマートフォンを要求してきた。スマートフォンを渡したが、更に腕時計や現金を要求してきたため、持っていた財布を取り出し、中身の紙幣をすべて渡したところ、徒歩にて逃走した。
被害例6	午後9時頃、タクシーに乗車し、ベルボ・ディビーノ通りをモエマ地区に向かう途中、渋滞でタクシーが停車した際、オートバイに乗った犯人が拳銃を示し現金を要求した。ワイシャツの胸ポケットに現金を入れており、即座に現金を差し出すと、犯人は他の同乗者にも現金を要求したが、タクシーの運転手が車内には現金はなく、トランクにある旨伝えたところ、犯人はそのまま逃走した。
被害例7	午後10時15分頃、空港タクシーで帰宅し、自宅アパート前に到着して車両から降り、キャリーケースを持って門の前にいたとき、どこからともなく現れた男にキャリーケースを渡すよう要求され、当初渡すことを拒んだが、男が拳銃を見せつけてきたため、身の危険を感じ指示に従ってキャリーケースを渡した。
被害例8	午後9時15分頃、ジャルジン地区において、タクシーに乗車して信号待ちの最中、バイクに乗り、デリバリーのリュックを背負った男が、開いていた運転席の窓越しに、運転手のこめかみに拳銃を突き付け、「抵抗しなければ何もしないので、携帯電話を出せ。乗客の持っている物を全部出させろ」と脅し、運転手の携帯電話と乗客が所持していた財布や携帯電話等在中のカバンを奪い、逃走した。
被害例9	午後9時頃、ビル内にてタクシーを手配し、アプリでタクシーの到着を確認後、携帯電話をしまい、タクシーに乗り込むためにビル敷地の外に出ようとしたところ、出口付近で3人の賊に取り囲まれ、財布と携帯電話を差し出すよう要求された。財布と携帯電話を差し出し、犯人は徒歩で現場から逃走した。

対策	<p>① タクシーであっても、車外から見えるところにカバン等の荷物を置かない。</p> <p>② 夕方のラッシュ時の乗車はできるだけ避ける。</p> <p>③ タクシー乗車中であっても、停車、渋滞時には付近の様子に目を配る。</p> <p>④ 一般的なタクシー事情として、電話で依頼するタクシー（ラジオ・タクシー）や停留所（タクシーポイント）に常駐するタクシーまた、カード決済で乗車可能な配車サービスについては信頼度が高いと言われている。</p> <p>⑤ タクシーを含め、車両の乗降時に犯罪被害に遭遇する可能性が高いので、速やかな乗降を心掛ける。</p> <p>具体的には、レストランや店舗では、建物を出る前にタクシーを呼び、到着後、速やかに乗車する。また、目的地に到着した際には、支払いに時間がかからないよう小銭を用意しておくなど、停車後、速やかに降車するよう工夫する。</p>
----	---

※ 他の交通機関

サンパウロでの他の交通機関には、地下鉄や市内バスがあげられますが、市内バスは強盗が多発しているため、できるだけ利用は避けてください。地下鉄は比較的安全ですが、乗車券売り場が強盗に襲われたり、犯罪者が被害者を物色する場所にもなります。比較的安全な場所であっても、回数券を利用して乗車券売り場に行く回数を減らすなど、少しでもリスクを軽減するように配慮してください。

(3) 短時間誘拐

被害例 1	<p>午後8時頃、カンピーナス市内の路上において、自家用車に乗車して交差点で停止中、運転席側に停車した車から拳銃を所持した2人の男が降車し、暴行を加えて運転していた邦人を後部座席に座らせ運転席に乗り込み、もう1人の男も後部座席に乗り込んで車両を発進させた。男は監禁場所に移動すると、財布、現金、各種カード、携帯電話や腕時計等の金品を強奪した。更に、ブラジル国内銀行のカードについてのみ暗証番号を聞き出すなどした。約1時間後に別の場所において解放されるも、それまでの間、拳銃を突きつけられ、排水溝につながる土管に入るよう強要されるなどした。また、各種カードの利用停止手続きの際、使用されている事実が確認された。</p>
被害例 2	<p>午後9時頃、サンパウロ市内の駅に車で家族を迎えに行き、車路上に停車させ降りようとした際、二人組の男に拳銃で脅され、車に押し込まれ、車に乗っ取られた。所持していた金品を奪われ、更にカードの暗証番号を聞き出され、犯人らは被害者を監禁していた間、同カードによりキャッシングやショッピングをした。</p>

対策	<p>① 駐車禁止場所ではなくとも、路上駐車は避ける。</p> <p>② 付近に駐車場がない場合や、友人等をアパートまで車で迎えに行き、路上待機せざるを得ない場合には、一旦降車し、車から離れて待機する。</p> <p>③ 乗降車の際には、周辺を警戒し、不審者を認めた場合は乗降車しない。</p> <p>④ できるだけキャッシュカード・クレジットカードと財布は分散して所持する（強盗から短時間誘拐に移行する場合があるため）。</p> <p>⑤ サンパウロでは「クリスマス」、「イースター」、「母の日」、「父の日」、「子どもの日」などの記念日に多くの受刑者が恩赦により仮釈放されるため、注意が必要である。</p>
----	--

(4) 車上ねらい

被害例 1	午後9時頃、所用を終え、サンパウロ市パライゾ地区の路上に駐車した車両に戻ったところ、後部座席の窓ガラスが割られており、車内に置いてあった現金やパソコン等が盗まれていた。
被害例 2	午後9時から11時までの間、サンパウロ市リベルダーヂ地区の路上に車両を駐車しておいたところ、運転席側の窓ガラスが割られ、カーステレオが盗まれていた。
被害例 3	午後7時40分頃、所用のために路上駐車して車を離れた際、ボールのようなもので車のドアがこじ開けられ、助手席のシート下に置いていたカバンが盗まれていた。被害に遭った車は防弾車であり、窓にはスモークフィルムも貼ってあった。
対策	<p>① 路上駐車は控え、監視付きの駐車場に停める。</p> <p>② 車内に荷物を残さない。どうしても荷物を車内に残す場合には、車外から見える場所に荷物を置かない。</p> <p>③ 窓ガラスを破損させて行われる犯罪には「飛散防止フィルム」が有効。</p> <p>④ 一時停車中でも車両のドアは常にロックしておく。</p>

4 ご家庭で

(1) 武装強盗団によるアパート強盗

被害例 1	サンパウロ市パライゾ地区所在のアパートにおいて、所用のため地階と自室をエレベータで行き来した後の午前10時30分頃、自室に戻ったところ複数名の賊が侵入しており、そのうちの1人が指で拳銃を構える仕草をしながら現金と宝石を全て出すよう指示してきた。約10分後、自室に戻ってきた家族も身柄を拘束され、携帯電話を奪われた。その後、自室にあったネクタイで手首を縛られ、賊の指示に従いトイレに留まっていたところ、物音がしなくなったことから午前11時10分頃にトイレから出てみると、賊は既に逃走していた。
-------	---

被害例 2	午後7時頃、サンパウロ市ジャルジン・パウリスタ地区のアパートにおいて、拳銃等で武装した約10名の犯人らが、高級自動車（BMW）などに分乗し、帰宅した住民がガレージを開放した際にアパート内に侵入した。その後、警備人等従業員を拘束し、外出・帰宅する住人を次々と拘束し、各住民の部屋から金品を強奪した。
対策	<p>① 外出時、部屋を出る前に警備人の門衛所を確認したり、インターホンで警備人に一言かけるなど、安全を確認する。</p> <p>② 自宅に家族・同居人がいる場合には、外出先から帰宅する前に電話を入れ、異常の有無を確認する。また、自宅に到着した時にも門衛所等を注視し、異常の有無を確認する。</p> <p>③ もし、自室内で異常に気が付いたら、出入口の施錠を確認し、施錠設備のある寝室などの部屋に身を隠した上、警察に通報する。</p> <p>④ 各種のサービス業者を装い、犯人がアパート内に侵入するケースもあることから、サービス業者の来訪予定がある場合には、事前にプロトコール番号を控え、門衛所に通報しておく。</p> <p>⑤ 最近では強盗団の侵入手口が巧妙化していることから、どれだけ防犯対策を講じたとしても絶対安全とは言い切れないため、事件に遭遇してしまった場合には、落ち着いて対処し、身体的被害を被らないよう注意する。</p>

(2) 自宅（旅行・外出中の空き巣）

被害例 1	午前4時頃、出勤のためグアルーリョス市所在の自宅を出発したが、その後、賊が玄関錠を破壊して室内に侵入し、電化製品やカード類が盗まれた。
被害例 2	午前11時頃から午後9時頃までの間、サンパウロ市サンタナ地区所在の自宅を施錠して留守にした後に帰宅したところ、窓ガラスが割られ室内が荒らされており、旅券やノートパソコン、腕時計等が盗まれていた。
被害例 3	午後1時頃から午後2時30分頃までの間、カンピーナス市所在の自宅を施錠して留守にした後に帰宅したところ、勝手口側扉の錠が破壊されていることに気が付いた。警察官とともに入室したところ、室内が荒らされ、現金やパソコン等が盗まれていた。
被害例 4	午後5時頃から翌日午後8時頃までの間、サンパウロ市ベラ・ヴィスタ地区所在のアパートを施錠して留守にしていたところ、室内に置いてあった現金、ノートパソコン等が盗まれていた。帰宅時は、鍵を2回転させて施錠したはずの玄関錠が1回転しか回っていない状態になっており、こじ開けられた跡もなかったことから合い鍵を使用したものと思われる。

対策	<p>① 家政婦は、信頼できる相手から紹介してもらう。</p> <p>② 自宅の鍵は、家政婦、アパート従業員等に預けない。 (鍵屋に行けば、ほんの1分程度で合鍵は作成可能)</p> <p>③ 新たに入居するアパートでは、施錠設備を取り替えてから入居する。</p> <p>④ 施錠設備は合鍵が作りにくい構造のものを選ぶと共に、1枚のドアに複数設置する。</p>
----	---

5 ホテルで

(1) 強盗

被害例	<p>午前2時頃、サンパウロ市ジャルジン・パウリスタ地区のホテルに戻ったところ、ホテル従業員の制服を着用して待ち受けていた強盗団がエレベーター内で頭に拳銃を突きつけ、ロビー奥の部屋に連れ込んだ。同所には、従業員や他の宿泊客10数人が両腕を縛られて座らされており、犯人らに脅されて金品を強奪され、部屋の鍵も奪われた。その後、強盗団は別の宿泊客も同じように拘束し、各客室に侵入しているようであったが、数時間後物音がしなくなったのを見計らって、自力で脱出した。</p>
対策	<p>① 深夜の外出はできるだけ控える。</p> <p>② ホテルを利用する際には、警備員の人数、配置状況、チェーンロックの有無、室内金庫の有無等を確認し、できるだけ安全性の高いホテルを選ぶ。</p> <p>③ 本件のような事件については、どれだけ防犯対策を講じたとしても絶対安全とは言い切れないため、事件に遭遇してしまった場合には落ち着いて対処し、身体的被害を被らないよう注意する。</p>

(2) 窃盗(置引き)

被害例	<p>午前8時頃、サンパウロ市ジャルジン・パウリスタ地区のホテルに宿泊していた邦人男性が、ホテル内レストランにて朝食をとる際、カバンを椅子の上に置き、コーヒーを入れて戻ったところ、別のカバンにすり替えられ、現金やパソコンをカバンごと盗まれた。</p>
対策	<p>ホテルやイベントホールなど、利用者が限られる場所であっても、警戒心を維持し、所持品から目を離さない。</p>

6 その他

(1) 両替後の強盗

被害例 1	旅行代理店にて両替後、同店内にて現金を旅行用のウエストポーチに収納して徒歩で移動した後の午前11時30分頃、サンパウロ市リベルダーヂ地区ガルボン・ブエノ通りにおいて拳銃を突き付けられ、付近のホテル駐車場に連れ込まれたため、所持していた荷物及び財布を差し出したところ、腹部に隠している物も出すよう要求され、現金や携帯電話等を奪われた。
被害例 2	グアルーリョス空港に到着し、ホテル手配の車両で旅行代理店に立ち寄って両替した後の午後0時頃、同車両でジャルジン・パウリスタ地区のホテルに到着したところ、後方から二人乗りのバイク2台が敷地内に侵入し、賊一人から拳銃を突き付けられ、他の三人に現金、パソコン、タブレット、スマートフォン等を奪われた。
被害例 3	旅行代理店にて両替後の午後1時頃、タクシーにて移動中、追尾する車両に気が付いたものの、そのまま走行を続け、サンパウロ市内から約70キロメートルの距離にある駐車場に入ったところで、車両とバイクが接近し、拳銃を突き付けられ、現金や旅券、パソコン等を奪われた。
被害例 4	旅行代理店にて両替後、徒歩で移動し、午後1時10分頃、リベルダーヂ地区レストラン街において、賊一人から拳銃を突き付けられ、現金等在中のカバンを奪われた。賊は別の一人が運転するバイクに乗車して逃走した。
被害例 5	旅行代理店において両替後、車両で移動し、午後2時頃、イピランガ地区において停車していた際、バイクに乗車した賊に拳銃を突き付けられ、窓を開けるよう要求されたが、これに応じなかったところ、発砲され、搬送先の病院にて死亡が確認された。
被害例 6	旅行代理店において航空券の手配、両替などをした帰路、午後3時頃にサウーデ区ウバイアス通り上において、賊にショルダーバッグをひたたくられそうになったため抵抗したところ、拳銃を突き付けられ、同バッグを奪われた。
被害例 7	旅行代理店にて両替後、地下鉄でリベルダーヂ駅からアナ・ローザ駅に移動、駅から徒歩で帰宅途中の午後3時頃、サンパウロ市ヴィラ・マリアナ区ジョゼ・デ・エイロス・アラニャ通りでバイクに乗車し拳銃を所持した二人組に襲われ、現金の入ったショルダーバッグを奪われた。
被害例 8	旅行代理店において両替後、地下鉄でリベルダーヂ駅からサンタ・クルーズ駅に移動、その後タクシーに乗車した午後3時頃、サンパウロ市ミランドポリス区イリース通りで下車したところ、後方から来たバイクの二人組に襲われ、現金、旅券、腕時計等を奪われた。

被害例 9	<p>午後4時頃、旅行代理店にて両替し、約10メートル離れた駐車場で車両に乗車しようとした際、バイクに乗った二人組が現れ、うち一人が降車して拳銃を突き付け、現金、旅券、携帯電話等在中のカバンを要求した。指示に従ってカバンを渡したところ、二人組はバイクに乗車して走り去った。なお、カバンと現金以外は後日発見され、返還された。</p>
対策	<p>① 常に警戒心を維持し、時折周囲に視線を向けるなど、警戒心を顕示する。</p> <p>② 荷物は最小限にし、手元から離さず、貴重品は極力持ち歩かない。</p> <p>③ 多額の現金等貴重品を所持している場合は、目的地までタクシー、車両等を利用する。</p> <p>④ 車両の乗降は可能な限り、警備員、鉄扉等、セキュリティのしっかりとした駐車場で行う。</p> <p>⑤ 降車の際は、特に周囲を警戒し、異変の察知に努める。</p> <p>⑥ 車両尾行等に気付いた場合は、ショッピングモール等人通りの多いエリアや付近の警察署等でやり過ごす。</p> <p>⑦ 万が一、強盗に遭遇した場合は絶対に抵抗せず、犯人の要求に従う。</p>

(2) 銀行利用時の強盗・窃盗

被害例 1	<p>午後0時頃、サンパウロ市サント・アマロ地区の銀行ATM機で現金引き出しを行っていたところ、突然後方から羽交い締めされ、解放された後にATM機を確認したところ、取り出し口にあるはずの現金が奪われていた。</p>
被害例 2	<p>午後3時15分頃、サンパウロ市イタケラ地区の銀行ATM機で現金引き出しを行った後、突然三人組に襲われ、現金等在中のポシェットを強奪された。</p>
被害例 3	<p>午前11時30分頃、サンパウロ市イタインビビ地区のスーパーマーケット内に設置のATM機を利用し、その場を立ち去ろうとしたところ、男から「データ画面が残っていて、次の人が利用できない」と声を掛けられ、急かされたため、慌てて自身のカードをATM機に挿入した。そこに別の男が現れ、暗証番号を盗み見られると共に、隙を見てカードを引き抜かれ、別のカードが挿入された。カードを盗まれたことに気付き、銀行に確認した時には、複数回にわたって現金が引き出されていた。</p>
対策	<p>① 常に警戒心を維持し、時折周囲に視線を向けるなど、警戒心を顕示する。</p> <p>② 現金引き出しの際は、なるべく警備員が配置され、利用客が多い場所を利用する。</p>

(3) 投石・パンクにより停車した車両への強盗・窃盗

被害例 1	午前7時30分頃、サンパウロ市パライゾ地区に所在するホテル横の路上に駐車し、約20分間車両から離れた。その後走行中にタイヤがパンクしたため、パライゾ地区クバトン通りに停車してタイヤ交換をしていたところ、見知らぬ男から「パウリスタ大通りは何処か」と尋ねられ、不審に思い、急いで車両の助手席に向かったが、車両右側に停車した車両から男が降りてきて、無施錠の助手席側ドアを開け、パソコンや書類等在中のカバンを盗んで逃走した。
被害例 2	午前7時30分頃、サンパウロ市北部のヴォルンターリオス・ダ・パトリア通りにおいて車両停車中に、子供が近づいてきて、タイヤがパンクしていると指摘された。その場でタイヤ交換を行うことは危険であると感じ、少し離れたガソリンスタンドまで行きタイヤ交換をしたが、開いていた車両の窓からパソコン等在中のカバンを盗まれた。
被害例 3	午前7時30分頃、サンパウロ市内から郊外へ車両にて向かう途中、タイヤの異常を感じたため、同市ベラ・ヴィスタ区ブリガデイロ・ルイス・アントニオ通りとペドロゾ通りの交差点付近に駐車してタイヤを確認したところ、左後方のタイヤに釘が刺さりパンクしていた。その後、同タイヤを交換して乗車したところ、後部座席に置いていたカバン等がなくなっていた。なお、降車した際には車両のドアを閉めたもののロックをしておらず、乗車した際には右後方のドアが半ドア状態となっていた。
被害例 4	午前8時頃、フランシスコ・マタラッソ大通り所在のガソリンスタンドでパンクしたタイヤを交換している隙に、車内に置いてあった現金、カード類、旅券、ノートパソコン、デジタルカメラ等在中のカバンを盗まれた。なお、ガソリンスタンドの防犯カメラには、黒色車両に乗った三人組の賊の一人が車両のドアを開け、カバンを盗んで逃げ去った映像が残されていた。
被害例 5	午前8時15分頃、サンパウロ市パライゾ地区をグアルーリョス市に向けハイヤーで走行中、車両の側を走行中の見知らぬバイク運転手にタイヤがパンクしていると指摘された。すぐに停車させ予備タイヤと交換中、地図を広げた見知らぬ男が声を掛けてきた。その後、取引先に到着したところ、トランク内にあるはずのカバンが盗まれていたことが判明した。
被害例 6	午前9時30分頃、サンパウロ市パライゾ地区のホテルを出発しトゥトイア通りを走行中車両のタイヤがパンクしていることに気付いた。被害者は車両をすぐに停止させるのは危険と判断し、後続車両がないことや不審な者が周辺にいないことを確認し、近くの自動車修理店で車両を停止させ、同修理店前の路上でタイヤ交換を行った。タイヤの交換中も不審者が近づかないよう片側の側面から車両を監視していたが、タイヤ交換終了後、乗車した際に座席に置いてあったカバンがなくなっていた。後から考えると、修理中に褐色系の男から道を尋ねられ、一瞬気をとられることがあったので、その隙に犯行が行われた可能性があった。

被害例7	午後10時頃、フェルナン・ジラス高速道路を走行中、車両に投石を受け、石がフロントガラスに直撃した。現場近くの歩道橋から何者かが投石をし、停車した車両に対して強盗をする目的があったとみられると当地治安機関は述べた。
対策	<ul style="list-style-type: none"> ① 常に警戒心を持ち、周囲に目を配るなど警戒心を顕示する。 ② 荷物を手元から離さない。 ③ 車から離れる際は必ず鍵を掛ける。 ④ 車両がパンクしていても、出来るだけガソリンスタンド等の明るく人気のある場所まで行き交換を行う。ただし、人気があるからといって油断することのないよう、周囲には注意を払う。 ⑤ 夜間の高速道路利用を極力避け、利用する場合は特に歩道橋が架かっている場所で投石される危険性が高いので十分気をつける。 ⑥ 路肩で立ち往生しているところを狙われるケースが多いので、周囲の状況を注視して、より安全な場所に避難・停車する。 ⑦ フェルナン・ジラス高速道路以外でも、アンシェッタ、アイルトン・セナ等の高速道路において、投石による被害が発生しているので注意が必要である。

(4) クレジットカードの不正利用

被害例1	クレジットカードで買い物をしようとした際、カードが使用停止状態となっていたことから、カード会社に電話で確認したところ、他州において身に覚えのない買い物（7件合計1、500リアル以上）がなされており、何者かがカードを偽造して使用していることが判明した。カードを使用した場所と金額が平素の使用状況と極めて異なることから、カード会社が使用停止状態にしたとのことであった。
被害例2	出張者がグアルーリョス空港にあるATM機でキャッシングしようとしてクレジットカードを挿入するも、手数料が高額であったためキャッシングしなかったが、後日オンライン明細を確認したところ複数回の不正利用（総額約500ドル）が判明した。
対策	<ul style="list-style-type: none"> ① 信用できる店以外ではクレジットカードは使わない。特にレストラン等の飲食店はカードを店の奥に持っていくことがあるので注意が必要。 ② 空港に設置されたATM機や人の往来が少ない場所に設置されたATM機は使用しない。 ③ サンパウロではカードの不正利用が多発しており、知らぬ間にスキミングされている可能性もあるので、こまめにインターネット等で口座の取引状況を確認する。 ④ ATM機から現金が出てこない、あるいは異常終了した場合、すでにカード情報が盗まれている可能性もあるため、すぐにカード会社に相談する。

(5) レストランにおける強盗

被害例 1	午後11時50分頃、サンパウロ市ジャルジン・パウリスタ地区で営業中のレストランにおいて、機関銃と拳銃を所持した4人組が侵入し、店内にいた飲食客約15名や従業員を拘束し、現金、クレジットカード、腕時計、携帯電話、ノート型パソコンなどの金品を強奪して逃走した。
被害例 2	午後7時頃、サンパウロ市パライゾ地区に所在する日本食レストランに入ろうとしたところ、三人組が店内で客らに拳銃を突きつけ強盗を行っていた場に遭遇してしまい、強制的に店内に引き込まれ、現金、時計、携帯電話等を奪われた。その後、警察は奪われた客の携帯電話のGPS機能で賊の居場所を割り出して現場に急行、銃撃戦の末、賊1名を射殺し、2名を逮捕した。
被害例 3	午後7時頃、サンパウロ市リベルダーヂ地区に所在する日本食レストランにおいて、男が店の前で様子をうかがった後、店内に侵入し、複数の客及び従業員に拳銃を突き付け現金を奪って逃走した。なお、同店には通常警備員がいるが、事件当時は通常より出勤が遅れ不在であった。
対策	<p>① 深夜の外出は控える。</p> <p>② 本件のような事件については、どれだけ防犯対策を講じたとしても絶対安全とは言い切れないため、事件に遭遇してしまった場合には落ち着いて対処し、身体的被害を被らないよう注意する。</p> <p>③ 犯人が逃走する際、現場に駆けつけた警察と犯人が出入り口付近で銃撃戦になることもあることから、可能であれば、ゆっくりと出入り口から離れ、レストラン奥のカウンターなど遮へい物に身を隠す。</p>

(6) 企業・商業ビル等に対する強盗

被害例 1	午前7時20分頃、サンパウロ市ピニェイロス区ジェゴ・モレイラ街所在の日系企業が入居する商業ビルの駐車場に1台の車両が現れ、クラクションを鳴らして駐車場に入庫する意思を示したことから、駐車場係員は何かしらの業務委託を受けた業者と思い門を開けた。すると、帽子、仮面及び手袋を着用した3名の賊が車両から降り、拳銃で駐車場係員を脅し、続けて4台の車両が駐車場に侵入し、複数の賊がその場を制圧した。賊は、ビル内の銀行、宝石店、眼鏡店等のドア等を破壊して侵入し、パソコンや携帯電話等を盗むと共に、防犯カメラの録画機器等も持ち去った。
----------	--

被害例2	<p>午前5時頃、サンパウロ市郊外の企業に車両にて出社したところ、正門が開かなかったため裏口から入構しようとした際、門の陰からライフルで武装した二人組（犯人の総数は不明）が現れた。咄嗟にアクセルを踏み、その場からの避難を試みたところ、犯人が二発発砲し、うち一発が車両に命中した（弾は車両後部から入射し、前席の中央付近に転がっていた）ため、車両を離れ茂みに身を隠した。しばらくすると犯人らの姿が見えなくなり、その後爆発音が聞こえたため、様子を窺った後、高速道路脇の緊急電話で助けを求めた。</p> <p>その後、犯人らは警備員を拘束し、社屋内に設置してあったATM機を爆破して中の現金を奪って逃走していたことが判明した。</p>
対策	<p>① 早朝・深夜の外出は控える。</p> <p>② 本件のような事件については、どれだけ防犯対策を講じたとしても絶対安全とは言い切れないため、事件に遭遇してしまった場合には落ち着いて対処し、身体的被害を被らないよう注意する。</p> <p>③ 犯人が逃走する際、現場に駆けつけた警察と犯人が出入り口付近で銃撃戦になることもあることから、可能であれば、ゆっくりと出入り口から離れ、レストラン奥のカウンターなど遮へい物に身を隠す。</p>

(7) 銃器発砲の危険性がある現場への遭遇

被害例	<p>午前7時20分頃、サンパウロ市ジャルジンス地区の路上において、銃器を所持した複数の男が徘徊し、信号停止していた車両の運転手から車両を強奪しようとしていた。同現場付近を邦人学生を乗せたスクールバスが通過した。</p>
対策	<p>① 犯行状況が見える場所・位置は、自身が流れ弾の被害を受ける範囲にいることとなる為、興味本位で犯行の様子を見ることはせず、姿勢を低くし、遮へい物に隠れて避難姿勢をとる。</p> <p>② 流れ弾による直接的な被害のほか、バスの窓ガラスに被弾すれば、割損してその破片で身体に傷害を負うなど、間接的な被害の虞もある。よって、バスに乗車している場合には、座席間の通路に姿勢を低くし（可能であれば伏せる）、避難姿勢をとる。</p>

(8) 電話による脅迫・詐欺

被害例	<p>午前11時頃、サンパウロ所在の日本企業に見知らぬ男から「お前の会社の役員の写真を持っている。2,000リアル支払わなければこの役員を襲う。俺はPCC（サンパウロの犯罪組織）の幹部を知っている。警察に連絡したら役員を殺す。」旨の脅迫電話がかかってきた。職員が「私からは答えられない。」等と答えると、男は「1,000リアルでもいいので支払え。また2時30分に電話する。」と言って電話を切ったが、その後、電話はかかってこなかった。</p>
-----	---

- ① 相手との会話の中で、相手がどの程度の事実（関係者の氏名、住所、年齢、携帯電話番号、家族構成等）を把握しているのかを聞き出し、話の確度を確認する。その際には決してこちらから情報を与えないよう注意する。
- ② もしも、相手が詳細な情報を知っている場合は、危険性が高いため、警察に連絡し、保護を求める。
- ③ 相手の脅しが嘘である可能性が高い場合は、警察に連絡する旨ははっきり申し向けるなど毅然とした態度をとり、長時間対応しない。
- ④ 固定電話については、日本と同様に登録者情報（住所、氏名、電話番号）が電話帳に掲載され、インターネットでも検索可能である。家庭の契約電話で支障がない場合には電話帳に掲載しないなど、日頃から個人情報が必要に流出しないよう配慮する。
- ⑤ 電話機は、可能な限りナンバーディスプレイ機能が付いたものを使用し、不審な電話を受けた時には相手方番号をメモする。
- ⑥ 上記のような電話があった場合、嘘の電話と判断した場合でも、当分の間は外出時、特にアパートや会社から出入りする際に付近を十分警戒する。
- ⑦ 上記脅迫のほか、誘拐事件の身代金、事故示談金などを名目に金銭を要求する「振り込め詐欺」についても、サンパウロで多発していることを認識する。
- ⑧ 振り込め詐欺の場合、「衝撃的な出来事」と「高い緊急性」を訴える金銭の要求が多く、考える時間や相談する時間を与えないようにするケースが多い。被害経験者からは、「振り込め詐欺のことは注意していたが、最初の電話で家族の不測の事態を聞かされ、頭の中が真っ白になった。」という声が聞かれるので、驚いた時、慌てている時こそ、落ち着いて冷静に対応する。また、一人で行動せず、必ず信頼のおける周囲の人に相談する。
- ⑨ 各種団体からの寄付金や援助金の要求に応じる場合にも、正規の団体を装った要求や、正規の団体名に酷似した紛らわしい団体名を使用した要求には十分注意し、要求団体や振込先についてよく確認する。
- ⑩ 「脅迫」や「詐欺」では、累次案件が多発している場合、公的機関に相談が多数寄せられていることもあるので、警察等公的機関に問い合わせる。